

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	1114 有機栽培米栽培推進事業	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
		目	03	農業振興費
基本 施策	42 持続的で個性的な農林業を實踐する	細目	287	農業振興経費
		細々目	57	有機栽培米栽培推進事業
行革大綱の重点事項番号		7		
担当部署	コード	750100		担当者 氏名
	名称	青山支所 振興課		
		中山 良恵	連絡先	52 - 1114 (内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀南部農協無農薬米生産部会	※対象件数
成果(どうする)	安心安全な伊賀米を生産する。	
根拠法令・要綱等	伊賀市補助金等交付規則	
開始年度/平成	年度	関連事業
終了年度/平成	年度	
H21 事業内容	・安心安全な伊賀米のPRと安定供給 ・生産者と消費者との交流 ・ふれあいフェスタin青山の出店	
社会情勢 の変化等	特になし	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
会員数	人	人	目標	29	目標	30
			実績	29	実績	22
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
作付け面積	ha	有機栽培米の生産拡大	目標		目標		
			実績	5.7	実績	5.1	
			目標		目標		
			実績		実績		

投入コスト	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
直接事業費計 (A)	50	50	50	50
Aの 財源 内訳				
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他				
一般財源	50	50	50	50
事業投入人件費 (B)	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人
フルコスト(A)+(B)	770	770	770	770

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
効果性	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
予算の繰越の有無	無	
【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
効果性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
受益者負担を求められることができる事業である。		
全体コストにおける負担構成は適正である。		○
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	有機栽培米の消費拡大の為の啓発活動を行い、生産の拡大を図る。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	消費者交流会(有機栽培米圃場見学会等)の実施、愛農ノア収穫感謝祭参加、トーベイ農業祭・ふれあいフェスタin青山で無農薬米の消費PRを行う。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	藤原 四郎
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	会員数は、減ってきているが作付け面積は、大きな減少でない。消費拡大を図る。
現時点における課題、その他	生産者が減少傾向にあるため面積の減少をおさえる。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	今後、有機栽培米の生産コストを抑え収益を上げることで農業者(会員数)が増えると同時に作付け面積も増加する。